

ternational Congress of Physiological Sciences) 2013. Birmingham, June.

- 5) 初山俊彦, 西條琢真. (一般演題 (ポスター): ニューロン・シナプス (1)) セロトニンによる前脳基底核アセチルコリン性ニューロンへの興奮性シナプス伝達抑制. 第91回日本生理学会大会. 鹿児島, 3月. [J Physiol Sci 2014; 64(Suppl.1): S139]
- 6) 西條琢真, 初山俊彦. (一般演題 (ポスター): 中枢神経7 神経伝達物質・シナプス) ラット前脳基底核コリン作動性ニューロンへの興奮性シナプス伝達に対するセロトニンの抑制作用 (Inhibitory effect of serotonin on the glutamatergic transmission onto cholinergic neurons in the basal forebrain of the rat). 第87回日本薬理学会年会. 仙台, 3月. [J Pharmacol Sci 2014; 124(Suppl.1): 176]
- 7) 西 晴久. (一般演題 (ポスター): 消化器, 内分泌・代謝) P2Y₁ 受容体を介したヒト副腎皮質株化細胞の糖質コルチコイド分泌 (Glucocorticoid secretion via P2Y₁ receptors in human-derived adrenocortical cells). 第87回日本薬理学会年会. 仙台, 3月. [J Pharmacol Sci 2014; 124(Suppl.1): 229]

IV. 著 書

- 1) 初山俊彦訳. 第II編: 神経薬理学 第14章: 神経伝達および中枢神経系. 高折修二 (京都大, 島根医科大), 橋本敬太郎 (山梨大), 赤池昭紀 (名古屋大), 石井邦雄 (北里大) 監訳. グッドマン・ギルマン薬理書: 薬物治療の基礎と臨床. 第12版. 東京: 廣川書店, 2013. p.454-94.

病 理 学 講 座

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 教 授: 池上 雅博 | 人体病理学: 特に消化管の病理 |
| 教 授: 鈴木 正章 | 人体病理学: 特に泌尿生殖器・乳癌の病理 |
| 教 授: 福永 眞治
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 診断病理, 軟部腫瘍, 産婦人科腫瘍 |
| 教 授: 酒田 昭彦
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 特に肝とリンパ網内系の病理 |
| 准教授: 千葉 諭 | 人体病理学: 特に肝・骨髄・循環, 脾, 胎生形態学の病理 |
| 准教授: 鷹橋 浩幸
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 特に泌尿生殖器・分子病理学, 診断病理 |
| 准教授: 野村 浩一
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 特に婦人科の病理 |
| 講 師: 金網友木子
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 腎生検組織を中心とした形態的解析 |
| 講 師: 原田 徹 | 人体病理学: 特に呼吸器疾患, 肝疾患 |
| 講 師: 鹿 智恵 | がんの発生・進展に関連する責任遺伝子の検索: 特に肝癌, 肺癌 |
| 講 師: 濱谷 茂治
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 特に消化管の病理 |
| 講 師: 小峯 多雅
(病院病理部へ出向中) | 人体病理学: 肝臓, 腎臓の三次元的構造解析 |

教育・研究概要

I. 肝臓に関する研究

1. 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の病勢を評価するために, 従来 Scheuer 分類や Ludwig 分類が用いられて来たが, 中沼分類が新たに提唱されている。また, PBC では血中の抗 gp210 抗体の増加が肝不全へ進行する頻度を高め, 生存率を下げる事が示唆されている。今回は, 中沼分類を用いて PBC の活動度と病期分類を行い, 従来の Scheuer 分類と比較検討した。更に, 抗 gp210 抗体高値群と低値群における組織所見を検索し, 抗 gp210 抗体がどのような組織的所見と関係しているかを考察した。Nakanuma 分類は PBC 患者のさまざまな組織的所見をスコア化し, それらを合計することで, 総合的に活動度・病期分類を行う分類である。しかし一方で, 分類には複雑な作業が必要であることが問題であった。抗 210 抗体高値群では CNSDC 出現率, 線

維化スコア、病期がいずれも高く、抗体の出現が肝不全と強く関係していた。

2. 初期の慢性肝炎の生検標本ブロックで、連続切片を作製し、立構築図を作製し、門脈末梢枝にどのような傷害が生じるかについて検討した。この結果、慢性肝炎の初期では、門脈末梢枝が線維化巣内で消失していた。

3. 画像解析の手法を用い正常肝の動脈密度、動脈壁の厚さ、内径/外径と年齢との関係を検討したが、これらとは明らかな関係はなかった。また、肝実質細胞の一定面積における肝細胞の核数を計測し、肝細胞は年齢とともに大きくなることが判明した。

4. 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) における蛋白質代謝に着目し、針生検肝を対象に、その障害状況を蛋白質の酸化ストレスと糖化ストレスの視点から検討した。その結果、蛋白質酸化損傷マーカー (ジチロシン) は、肝細胞内で比較的均等に顆粒状に分布し、特に線維化巣周辺・門脈域周辺肝細胞内でより強く発現がみられた。糖酸化マーカー (カルボキシメチルリジン) も、同様の分布を示したが、貪食マクロファージ内でより強く認められた。

II. 腎臓に関する研究

1. IgA 腎症 Oxford 国際分類は、我が国の組織学的重症度分類 (日本分類) と異なるため、Oxford 研究の手法を用いて、我が国の症例を後方視的に追試した。233 症例の成人 IgA 腎症患者を対象とし、追跡期間は 127ヶ月であった。腎機能の 50% 低下あるいは末期腎不全への進展を endpoint とした Cox 単回帰ならびに重回帰分析では、管外性病変の有無と間質線維化の程度が腎予後に関する独立した予測因子であった。一方、Oxford 分類では、管外性病変は選ばれず、間質線維化と分節状硬化のほかにメサンギウム細胞増殖と管内増殖病変が予後不良因子として選択された。両者の相違は追跡期間、対象年齢、初期の eGFR と蛋白尿の制限の違いによった。

III. 消化管に関する研究

1. 大腸神経内分泌腫瘍は、2010 年 WHO 消化器腫瘍分類において腫瘍の核分裂数と Ki67 指数を組み合わせて内分泌細胞腫瘍 (NET) Grade1, Grade2, 内分泌細胞癌と分類されるようになった。そこで当院では過去にカルチノイド腫瘍と診断されたものを新しい診断基準に当てはめ、その病理学的特徴について検索した。内視鏡的切除を施行された大腸カルチノイド腫瘍 98 例について、NET におけ

る grade が高いほど大きく、脈管侵襲率も高かった。

2. 小型大腸癌のリンパ節転移危険因子の検討を SM 癌 203 例と 20mm 以下の進行癌 62 例を用いて検討した。SM 癌にて、リンパ節転移危険因子として、肉眼的陥凹の有無、粘膜内増殖態度 (PG, NPG), SM 浸潤度 (SM1, SM2/3), 浸潤部組織型 (well/mod, por), 簇出の有無、特殊染色を施行して評価した脈管侵襲の有無の 6 項目を設定し多変量解析を行った。結果、最も重要な危険因子としてとりあげられた項目は脈管侵襲であった。(Odds 比 : 9.5)。脈管侵襲が陰性であれば、ほぼリンパ節転移はないものと考えられた。20mm 以下進行癌の検討でも同様の侵襲であった。少なくとも脈管侵襲のない病変については、リンパ節転移の危険性が極めて低いことが示唆された。

IV. 泌尿生殖器に関する研究

1. 泌尿器・男性生殖器腫瘍に関する臨床病理学的研究

1) 膀胱原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍 (IMT) 8 症例について免疫組織学的検討を行った。全症例で ALK 陽性であった。うち 1 症例ではびまん性に p53 陽性を示し、著明な核分裂を認めた。同症例は経過中に複数回再発し、組織像は高異型度なものに変化していた。IMT において p53 の染色性が悪性度の指標となる可能性が示された。

2) 日本人前立腺癌症例 201 症例について、癌の局在ごとの臨床病理学的因子の解析を行った。前方癌 83 症例、後方癌 72 症例、そのほか 46 症例で、西欧諸国に比して前方発生症例が多かった。前方癌と後方癌では Gleason score や pT の分布などに統計学的有意差を認めた。一方で、前方癌においても無視できない割合で高 Gleason score, 高 stage の症例を認めた。

3) 当院で検索された胎盤 1,344 例中、血管腫 21 例を抽出し、臨床病理学的特徴を調べた。その結果胎盤血管腫は初産婦、多胎、女兒に多く、血管腫径の大きさは胎児水腫や胎児右心負荷のリスクに正の相関を示した。組織学的に capillary hemangioma が多数を占めた。1 例はリンパ管腫あるいは lymphatic malformation の性質を有していると考えられた。

4) Malignant mesonephric tumor 12 例を臨床病理学的に検索した。半数は子宮頸部に原発しているが、体部、卵巣・傍卵巣の原発例もあった。Mesonephric 遺残ないし遺残式は 4 例のみに認めた。組織像は多彩で、類内膜腺癌と類似する症例が多く、

紡錘形細胞が主体をなすもの、癌肉腫に相当する例もあった。組織発生として Mesonephric 遺残ないし遺残式に由来するものと、主に mesonephric への分化を示す腺癌が考えられた。

5) 妊娠週齢が 20 週以下の placental mesenchymal dysplasia (PMD) について組織学的に検索した。20 週以上の例と比較すると、部分胞状奇胎様の変化と絨毛間質の血管増生が特徴的であった。

6) Luteinized thecomatosis with sclerosing peritonitis は、両側卵巣の黄体化莢膜細胞腫と腹膜炎に特徴づけられる稀な病態である。卵巣病変では腫瘍性と反応性の両者の可能性が示唆され、見解の一致が得られていない。また、卵巣病変と腹膜病変の関連性も不明とされている。我々が経験した症例では、両側卵巣に皮質に紡錘形細胞の増殖と、一部で黄体化を示す類円形細胞が混在していた。類円形細胞は莢膜細胞腫の形質を有するが、腫瘍を示唆する均質な増殖像は確認出来ず、腫瘍性病変と反応性病変の区別は困難であった。また、卵巣と大網病変の関連も不明であった。

V. その他の研究

Chagas 病の剖検例を経験した。本症例では生前に診断がつけられていた。Amastigotes は心筋と脳にみられた。本例は長期海外出張の経験者で、他国出身者や帰国者が増え、感染防御の必要性が考えられた。

7 歳女兒の左上腕部 Angiomatoid fibrous histiocytoma の一例を経験した。同腫瘍は稀であるが、特徴的な臨床像および病理所見から診断にいたった。本症例では術前の血中 IL-6 高値、術後の低下を認めた。免疫組織染色上、腫瘍部に IL-6 陽性を認めた。

〔点検・評価〕

例年通り、病理学講座では主として卒前・卒後教育、病院病理部では診断業務が遂行された。講座教員は、3 年生、4 年生の講義と病理学実習、3 年生の研究室配属、6 年生の選択実習を担当し、きめ細かな教育・指導を行った。病院病理部出向教員は、15,976 例の病理組織診断、16,602 例の細胞診断、32 例の病理解剖診断などをはじめとする病理診断を主軸とする業務に携わり、これを遂行した。さらに講座・病理部出向教員が協同して、臨床各科との症例検討会、個々の症例に関する臨床医とのディスカッションを通して、医療に貢献した。

ここ数年、人員増が続いている。次世代に向け、良質の病理医を育成することは講座・病院病理部共

通の一大目標であり、この目標に従って行動計画を練り、教育・研究・診療のバランスがとれた病理医を育てることに對して教授以下スタッフ一同で努力した。また人員の増加に伴って、病院病理部で勤務していた 3 名の若手医師を 3 分院へ、1 名を講座勤務へと異動することができた。また分院に出向した若手医師に対して、週 1 回の本院病理部勤務日を設けることにより、本院でやり残した業務を継続することができるのと同時に、指導医との良好なコミュニケーションを図ることができた。次年度も 3 名の入局者が予定されており、数的な充実ともなっており、より一層の教育・指導体制の強化が望まれる。

上記のような基本体制であるが、実情としては、講座教員は病院病理部での診断の一部を担い、逆に病理部出向教員も講義・実習の一部に参画するという「相乗り」業務が行われた。これは一見、非効率的のように思えるが、現在の指導者層、中間層の人員の関係、個々の指導者の専門性などの観点から致し方ないものである。また、この体制により、講座教員は病理診断能力を継続することができ、逆に病理部出向教員も教育の重要性を日々認識し、スキルアップすることができるという利点もあり、引き続きこの方法で各々の業務を推進していくことになると思われる。

教育、診療における病理の重要性は日ごとに増しており、研究に割く時間的余裕がない、という状況が劇的に改善されることはなかったと思われる。しかしながら、人員増により、個人にかかるルーチンワークの負担は少しずつであるが、解消の方向にむかっている。例えば、分院出向の若手医師の中には、うまく時間を活用して本院時代の残務を完了し、研究を遂行してといった者も出始めている。また、ここ 20 年ほど課題であった、臓器疾患別の研究班の構築に関しても、徐々にではあるが、各々の分野においてその礎が築かれつつある。次年度に向けて、さらに指導者層、中間層、若手が一致団結して、研究体制を整備して、効率的に研究を遂行できる環境を整備していきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Hano H, Takasaki S, Kobayashi H, Koyama T, Lu T, Nagatsuma K. In the non-cirrhotic stage of nonalcoholic steatohepatitis, angioarchitecture of portal veins and lobular architecture are maintained. *Virchows Arch* 2013; 462(5) : 533-40.
- 2) Watanabe S¹⁾, Imaizumi T¹⁾, Tsuruga K¹⁾, Aizawa

- T¹), Ito T¹), Matsumiya T¹), Yoshida H¹), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Ito E¹), Tanaka H¹) (¹Hirosaki Univ). Glomerular expression of myxovirus resistance protein 1 in human mesangial cells: possible activation of innate immunity in the pathogenesis of lupus nephritis. *Nephrology (Carlton)* 2013; 18(12): 833-7.
- 3) Komatsuda A¹), Ohtani H¹), Sawada K¹), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Wakui H¹) (¹Akita Univ). Proliferative glomerulonephritis with discrete deposition of monoclonal immunoglobulin γ 1 C_{H2} heavy chain and κ light chain: a new variant of monoclonal immunoglobulin deposition disease. *Pathol Int* 2013; 63(1): 63-7.
- 4) Shirai M¹), Wakui S, Wempe MF (Univ of Colorado), Mutou T²), Oyama N²) (²Drug Safety Testing Center), Motohashi M¹), Takahashi H, Kansaku N¹), Asai M¹) (¹Azabu Univ), Hano H, Endou H (J-Pharma). Male Sprague-Dawley rats exposed to in utero di (n-butyl) phthalate: dose dependent and age-related morphological changes in Leydig cell smooth endoplasmic reticulum. *Toxicol Pathol* 2013; 41(7): 984-91.
- 5) Zlotta AR¹⁾²⁾, Egawa S, Pushkar D³⁾, Govorov A³⁾, Kimura T, Kido M, Takahashi H, Kuk C¹⁾²⁾) (¹Mount Sinai Hosp), Kovylyna M³⁾) (³Univ of Moscow), Al-doud N²⁾, Fleshner N²⁾, Finelli A²⁾, Klotz L (Sunnybrook and Women's Health Science Centre), Sykes J²⁾, Lockwood G²⁾, van der Kwast TH²⁾) (²Univ Health Network). Prevalence of prostate cancer on autopsy: cross-sectional study on unscreened Caucasian and Asian men. *J Natl Cancer Inst* 2013; 105(14): 1050-8.
- 6) Leinonen KA¹), Saramäki OR¹), Furusato B, Kimura T, Takahashi H, Egawa S, Suzuki H (Toho Univ), Keiger K²⁾, Ho Hahm S²⁾, Isaacs WB²⁾) (²Johns Hopkins Univ), Tolonen TT¹), Stenman UH (Helsinki Univ), Tammela TL¹), Nykter M¹), Bova GS¹), Visakorpi T¹) (¹Univ of Tampere). Loss of PTEN is associated with aggressive behavior in ERG-positive prostate cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2013; 22(12): 2333-44.
- 7) Sasaki H, Kido M, Miki K, Kuruma H, Takahashi H, Aoki M, Egawa S. Salvage partial brachytherapy for prostate cancer recurrence after primary brachytherapy. *Int J Urol* 2013; 21(6): 572-7.
- 8) Kimura T, Kido M, Miki K, Yamamoto T, Sasaki H, Kuruma H, Hayashi N, Takahashi H, Aoki M, Egawa S. Mid-term outcome of permanent prostate iodine-125 brachytherapy in Japanese patients. *Int J Urol* 2014; 21(5): 473-8. Epub 2013 Nov 20.
- 9) Chiba N¹), Watanabe S¹), Aizawa-Yashiro T¹), Tsuruga K¹), Ito E¹), Oda T (National Defense Medical College), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Tanaka H¹) (¹Hirosaki Univ). Severe post-streptococcal acute glomerulonephritis and periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and cervical adenitis syndrome. *Pediatr Int* 2013; 55(2): 259-61.
- 10) Konosu-Fukaya S¹), Nakamura Y¹), Fujishima F¹), Kasajima A¹), McNamara KM¹), Takahashi Y¹), Joh K²), Saito H¹), Ioritani N²), Ikeda Y²) (²Sendai Shakaihoken Hosp), Arai Y¹), Watanabe M¹), Sasano H¹) (¹Tohoku Univ). Renal epithelioid angiomyolipoma with malignant features: histological evaluation and novel immunohistochemical findings. *Pathol Int* 2014; 64(3): 133-41.
- 11) Konosu-Fukaya S¹), Nakamura Y¹), Fujishima F¹), Kasajima A¹), Takahashi Y¹), Joh K²), Ikeda Y²), Ioritani N²) (²Sendai Shakaihoken Hosp), Watanabe M¹), Sasano H¹) (¹Tohoku Univ). Bilateral papillary renal cell carcinoma and angiomyolipoma in the patients with autosomal dominant polycystic kidney disease: case report of two cases and literature review. *Pol J Pathol* 2013; 64(4): 303-7.
- 12) Oe Y¹⁾²⁾, Joh K¹), Sato M¹), Taguma Y¹), Onishi Y²), Nakayama K²) (²Tohoku Univ), Sato T¹) (¹Sendai Shakaihoken Hosp). Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgM- κ deposits in chronic lymphocytic leukemia/small lymphocytic leukemia: case report and review of the literature. *CEN Case Rep* 2013; 2: 222-7.
- 13) Muso E¹), Endo T¹), Itabashi M (Tokyo Women Medical College), Kakita H¹), Iwasaki Y¹), Tateishi Y¹), Komiya T¹), Ihara T¹) (¹Tazuke Kofukai Medical Research Institute), Yumura W (International Univ of Health and Welfare), Sugiyama T (Shimoshi-zu National Hosp), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Suzuki K (Teikyo Univ). Evaluation of the newly proposed simplified histological classification in Japanese cohorts of myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis in comparison with other Asian and European cohorts. *Clin Exp Nephrol* 2013; 17(5): 659-62.
- 14) Sugiyama H¹), Yokoyama H (Kanazawa Medical Univ), Sato H (Tohoku Univ), Saito T (Fukuoka Univ), Kohda Y (Kumamoto Univ), Nishi S (Kobe Univ), Tsuruya K²), Kiyomoto H, (Tohoku Univ) Iida H (Toyama Prefectural Central Hosp), Sasaki T (Kawasaki Medical School), Higuchi M (Shinshu

- Univ), Hattori M (Tokyo Women's Medical Univ), Oka K (Hyogo Prefectural Nishinomiya Hosp), Kagami S (Univ of Tokushima), Kawamura T, Takeda T (Niigata Univ), Hataya H (Tokyo Metropolitan Children's Medical Center), Fukasawa Y (KKR Sapporo Medical Center), Fukatsu A (Kyoto Univ), Morozumi K (Japanese Red Cross Nagoya Daini Hosp), Yoshikawa N (Wakayama Medical Univ), Shimizu A (Nippon Medical School), Kitamura H (Chiba East National Hosp), Yuzawa Y (Fujita Health Univ), Matsuo S (Nagoya Univ), Kiyohara Y²⁾ (²Kyushu Univ), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Nagata M (Univ of Tsukuba), Taguchi T (Nagasaki Univ), Makino H¹⁾ (¹Okayama Univ). Japan Renal Biopsy Registry and Japan Kidney Disease Registry: Committee Report for 2009 and 2010. *Clin Exp Nephrol* 2013; 17(2): 155-73.
- 15) Fukunaga M. Uterine cervical tubulosquamous polyp resembling a penis. *Int J Gynecol Pathol* 2013; 32(4): 426-9.
- 16) Suzuki Y¹⁾, Matsuzaki K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Sakamoto N (National Research Institute for Child Health and Development), Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Kawamura T, Tomino Y¹⁾ (¹Juntendo Univ), Matsuo S (Univ of Nagoya). Proposal of remission criteria for IgA nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2014; 18(3): 481-6. Epub 2013 Aug 4.
- 17) Morikawa A, Ueda K, Takahashi K, Fukunaga M, Iwashita M¹⁾, Kobayashi Y¹⁾ (¹Kyorin Univ), Takechi K (Showa General Hosp), Umezawa S (Japanese Red Cross Musashino Hosp), Terauchi F (Tokyo Medical Univ), Kiguchi K (St. Marianna Univ), Aoki D²⁾, Nomura H²⁾ (²Keio Univ), Yoshikawa H³⁾, Satoh T³⁾ (³Univ of Tsukuba), Jobo T (Social Insurance Sagamino Hosp), Fujiwara H⁴⁾, Takei Y⁴⁾ (⁴Jichi Medical Univ), Kamoi S (Nippon Medical School), Terao Y (Juntendo Univ), Isonishi S. Pathology-oriented treatment strategy of malignant ovarian tumor in pregnant women: analysis of 41 cases in Japan. *Int J Clin Oncol* 2014 Feb 18.
- 18) Omori Y, Saeki H, Ito K, Umezawa Y, Ishiji T, Ota A, Fukunaga M, Nakagawa H. Extragenital subcutaneous cellular angiofibroma of the elbow. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2013; 28(6): 828-30. Epub 2013 Nov 15.
- 19) Tateishi J, Saeki H, Ito K, Nakagawa H, Fukunaga M. Cutaneous composite hemangioendothelioma on the nose treated electron beam. *Int J Dermatol* 2013; 52(12): 1618-9.
- 20) Miyazaki Y, Kawamura T, Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Okonogi H, Koike K, Utsunomiya Y, Ogura M, Matsushima M, Yoshimura M (Kanazawa Medical Center), Horikoshi S¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Furusu A (Nagasaki Univ), Yasuda T²⁾, Shirai S²⁾, Shibata T (Showa Univ), Endoh M (Tokai Univ), Hattori M³⁾, Akioka Y³⁾ (³Tokyo Women's Medical Univ), Katafuti R (National Fukuoka-Higashi Medical Center), Hashiguchi A (Keio Univ), Kimura K²⁾ (²St. Marianna Univ), Matsuo S (Univ of Nagoya), Tomino Y¹⁾ (¹Juntendo Univ). Overestimation of the risk of progression to end-stage renal disease in the poor prognosis' group according to the 2002 Japanese histological classification for immunoglobulin A nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2014; 18(3): 475-80. Epub 2013 Aug 10.
- 21) Higashimoto K¹⁾, Maeda T¹⁾, Okada J²⁾, Ohtuka Y¹⁾, Sasaki K³⁾, Hirose A²⁾, Nomiyama M⁴⁾, Takayanagi T⁴⁾ (⁴Saga National Hosp), Fukuzawa R (Tokyo Metropolitan Children's Medical Center), Yatsuki H¹⁾, Koide K¹⁾, Nishioka K¹⁾, Joh K¹⁾, Watanabe Y²⁾ (²Kurume Univ), Yoshiura K³⁾ (³Nagasaki Univ), Soejima H¹⁾ (¹Saga Univ). Homozygous deletion of DIS3L2 exon 9 due to non-allelic homologous recombination between LINE-1s in a Japanese patient with Perlman syndrome. *Eur J Hum Genet* 2013; 21(11): 1316-9.
- 22) Furuya K, Kaku Y, Yoshida K, Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Kurosaka D. Therapeutic effects of sunitinib, one of the anti-angiogenetic drugs, in a murine arthritis. *Mod Rheumatol* 2014; 24(3): 487-91. Epub 2013 Dec 2.
- 23) Nakamura T¹⁾, Tsuruga K¹⁾, Watanabe S¹⁾, Ito E¹⁾, Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Tanaka H¹⁾ (¹Hirosaki Univ). Persistent immature glomeruli in a girl with refractory nephrotic syndrome. *Nephrology (Carlton)* 2013; 18(1): 77-8.
- 24) Tsuboi N, Utsunomiya Y, Koike K, Kanzaki G, Hirano K, Okonogi H, Miyazaki Y, Ogura M, Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Kawamura T, Hosoya T. Factors related to the glomerular size in renal biopsies of chronic kidney disease patients. *Clin Nephrol* 2013; 79(4): 277-84.
- 25) Kawamura T, Joh K (Sendai Shakaihoken Hosp), Okonogi H, Koike K, Utsunomiya Y, Miyazaki Y, Matsushima M, Yoshimura M (Kanazawa Medical Center), Horikoshi S¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Furusu A (Nagasaki Univ), Yasuda T²⁾, Shirai S²⁾, Shibata T (Showa Univ), Endoh M (Tokai Univ), Hattori M (Tokyo

Women's Medical Univ), Katafuchi R (National Fukuoka-Higashi Medical Center), Hashiguchi A (Keio Univ), Kimura K²⁾ (²St. Marianna Univ), Matsuo S (Univ of Nagoya), Tomino Y¹⁾ (¹Juntendo Univ); Study Group Special IgA Nephropathy. A histologic classification of IgA nephropathy for predicting long-term prognosis: emphasis on end-stage renal disease. *J Nephrol* 2013; 26(2): 350-7.

- 26) 芦川智美, 梅澤 敬, 野村浩一, 恩田威一, 神谷直樹, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 池上雅博. サーベックスブラシを用いた split-sample による BD シュアパス液状化細胞診と直接塗抹法における標本適否の比較. *日臨細胞会誌* 2014; 53(2): 89-93.
- 27) 三石雄大, 斎藤彰一, 井出大資, 猪又寛子, 大谷友彦, 玉井尚人, 加藤智弘, 田尻久雄, 池上雅博. 下行結腸にみられた径 20mm の大腸平滑筋腫の 1 例. *Prog Dig Endosc* 2013; 83(1): 160-1.
- 28) 土屋幸子, 梅澤 敬, 芦川智美, 福村絢奈, 梅森宮加, 野村浩一, 池上雅博, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳. BD シュアパス液状処理細胞診システムへの粘液添加実験 標本不適正要因を除去する前処理工程の検討. *日臨細胞会誌* 2013; 52(6): 502-6.
- 29) 土橋 昭, 郷田憲一, 小林寛子, 小林雅邦, 加藤正之, 炭山和毅, 豊泉博史, 加藤智弘, 廣岡信一, 池上雅博, 田尻久雄. 【日本食道学会拡大内視鏡分類】日本食道学会拡大内視鏡分類と深達度 鑑別・深達度診断における B1 血管の意義. *胃と腸* 2014; 49(2): 153-63.

II. 総 説

- 1) 廣岡信一, 池上雅博, 片木宏昭, 会澤大介, 柳沢春華, 三石雄大, 牧島 玲, 岡安未央子. 【非腫瘍性大腸ポリープのすべて】炎症性ポリープ 病理診断の立場から. *胃と腸* 2013; 48(8): 1149-60.
- 2) 鷹橋浩幸. 前立腺癌の病理と新改定 Gleason 分類 (ISUP2005). 最新医 2014; 別冊 (新しい診断と治療の ABC 49: 内分泌 4: 前立腺癌 改訂第 2 版): 33-51.
- 3) 金網友木子. 【移植腎病理: 実践的な移植腎病理診断のために】EB ウイルスと移植後リンパ増殖疾患. *腎と透析* 2013; 75(5): 684-90.
- 4) 福永真治. 【皮膚疾患のみかた II - 腫瘍および腫瘍様病変 -】皮膚特有の間葉系腫瘍 血管 (脈管) 性および筋原性腫瘍. *病理と臨* 2014; 32(4): 383-90.
- 5) 福永真治. 【細胞診の基本から実践へ】(第 2 部) 細胞診の実際とトビックス 骨・軟部腫瘍. *病理と臨* 2013; 31(臨増): 352-9.
- 6) 福永真治. 【プロメテウス 婦人科がん最新医療】絨毛性疾患の病理診断. *産婦の実際* 2013; 62(12):

2018-21.

III. 学会発表

- 1) Sato S, Takahashi H, Furusato B, Okayasu M, Ikegami M. Clinicopathological analysis of prostatic adenocarcinoma at anterior location in Japanese men. 103rd UCAP (United States and Canadian Academy of Pathology) Annual Meeting. San Diego, Mar. [*Mod Pathol* 2014; 27(S2): 258-9A]
- 2) Fukunaga M. Uterine cervical tubulosquamous polyp resembling a penis. 25th European congress of Pathology. Lisbon, Sept.
- 3) Fukunaga M. Hepatoid carcinoma with serous element of the tube. 6th Arkadi M. Rywlin International Pathology Slide Seminar Club Symposium in Anatomic Pathology. Tel Aviv, June.
- 4) Fukunaga M. Mesonephric adenocarcinoma of the uterine cervix. 6th Arkadi M. Rywlin International Pathology Slide Seminar Club Symposium in Anatomic Pathology. Tel Aviv, June.
- 5) Fukunaga M. Small cell carcinoma of the ovary, hypercalcemic type. 6th Arkadi M. Rywlin International Pathology Slide Seminar Club Symposium in Anatomic Pathology. Tel Aviv, June.
- 6) 福永真治. 脳神経, 髄液, 骨軟部の細胞診. 日本病理学会 2013 年細胞診講習会. 東京, 2013 年 2 月.
- 7) 鷹橋浩幸. (教育講演 15: 泌尿器) 腎細胞癌と鑑別を要する腫瘍. 第 33 回日本画像医学会. 東京, 2 月. [*Jpn J Diag Imaging* 2014; 32(1): 51]
- 8) 岡安美央子, 鷹橋浩幸, 山本順啓, 加藤弘之, 古里文吾, 水上齊之助, 羽野 寛. (一般口演 41 前立腺がんの病理) 前立腺癌精囊浸潤における予後予測因子の検討. 第 102 回日本病理学会総会. 札幌, 6 月. [*日病理会誌* 2013; 102(1): 329]
- 9) 酒田昭彦. (一般示説 88 肝: NASH の病態) 非アルコール性脂肪性肝炎におけるブルーニング変性の分布と推移. 第 102 回日本病理学会総会. 札幌, 6 月. [*日病理会誌* 2013; 102(1): 466]
- 10) 廣岡信一, 池上雅博, 野村浩一, 原田 徹, 古里文吾, 小山大河, 片木宏昭, 佐藤 峻, 柳沢春華, 羽野寛. (一般示説 81 大腸がん: リスクファクターと診断基準) 大腸 SM 癌におけるリンパ節転移危険因子の検討. 第 102 回日本病理学会総会. 札幌, 6 月. [*日病理会誌* 2013; 102(1): 457]
- 11) 金網友木子, 中野雅貴, 片木宏昭, 小倉 誠, 松本啓, 田尻 進. Warfarin 関連腎症と考えられた 1 例. 第 49 回成医学会柏支部例会. 柏, 12 月.
- 12) 中野雅貴, 金網友木子. (一般示説 18 卵巣: 症例と病態 (1)) Luteinized thecoma with sclerosing peri-

- toneitis の一例. 第102回日本病理学会総会. 札幌, 6月. [日病理会誌 2013; 102(1): 378]
- 13) 鹿 智恵, 古里文吾, 水上斉之助, 廣岡信一, 柳沢春華, 小池裕人, 中村麻予, 須藤明美, 原田 徹, 千葉 諭, 鈴木正章, 鷹橋浩幸, 池上雅博, 羽野 寛. 肝細胞がんの発生における MTUS1 タンパク質の発現減弱の意義. 第130回成医会. 東京, 10月. [慈恵医大誌 2013; 128(6): 201]
- 14) 鹿 智恵, 羽野 寛. (一般口演 45 肝疾患・病態と分子機序) 肝細胞がんの発生過程における PROM1 タンパク質の発現減弱と意義. 第102回日本病理学会総会. 札幌, 6月. [日病理会誌 2013; 102(1): 337]
- 15) 鹿 智恵, 水上斉之助, 小峯多雅, 鷹橋浩幸, 池上雅博, 羽野 寛. (一般口演 59 肺がん: マーカー解析) 原発性肺がんの発生における PROM1 タンパク質の発現と意義. 第102回日本病理学会総会. 札幌, 6月. [日病理会誌 2013; 102(1): 343]
- 16) Lu T, Ikegami M. (Posters: P4-14: 新規がん関連遺伝子の機能) Decreased MTUS1 protein expression is associated with the carcinogenesis of hepatocellular carcinoma. 第72回日本癌学会学術総会. 横浜, 10月. 2013; 52(Suppl.1): 322.
- 5) 鹿 智恵, 古里文吾, 水上斉之助, 廣岡信一, 柳沢春華, 小池裕人, 中村麻予, 須藤明美, 原田 徹, 千葉 諭, 鈴木正章, 鷹橋浩幸, 池上雅博, 羽野 寛. 肝細胞がんの発生における MTUS1 タンパク質の発現減弱の意義. 慈恵医大誌 2013; 128(6): 201.

IV. 著 書

- 1) 廣岡信一, 池上雅博. I章: 内視鏡検査の基本事項と病理診断の進め方 2. 消化管病理診断の基本. 田尻久雄, 斉藤 豊¹⁾, 池上雅博, 九嶋亮治¹⁾ (¹⁾国立がん研究センター). 消化管癌カラーアトラス: 内視鏡所見から病理診断へ迫る. 東京: 南江堂, 2013. p.7-19.

V. その他

- 1) 梅澤 敬, 野村浩一, 廣岡信一, 原田 徹, 池上雅博, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 恩田威一, 沢辺元司. 人間ドックにおける BD シュアパスと綿棒による直接塗抹法の子宮頸部 SIL 検出率. 日臨細胞会誌 2013; 52(Suppl.1): 177.
- 2) 佐藤 峻, 鷹橋浩幸, 瀧口紗世, 野村浩一, 古里文吾, 原田 徹, 廣岡信一, 小山大河, 片木宏昭, 柳沢春華, 羽野 寛, 池上雅博. 膀胱原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍における p53 の発現を主体とした免疫組織化学的検討. 日病理会誌 2013; 102(1): 412.
- 3) 原田 徹, 柳沢春華, 片木宏昭, 佐藤 峻, 小山大河, 廣岡信一, 古里文吾, 野村浩一, 池上雅博, 濱田智美, 鈴木正章, 羽野 寛. 胸腺腫瘍に合併した心筋炎・筋炎症例の臨床病理学的検討. 日病理会誌 2013; 102(1): 401.
- 4) 土屋幸子, 梅澤 敬, 芦川智美, 福村絢奈, 野村浩一, 池上雅博, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 則松良明. BD シュアパスへの粘液添加実験 標本不適正要因を除去する前処理工程の分析. 日臨細胞会誌